

— 年長 トマトの種の事例から —

事例の概要

ある幼児のお弁当のトマトが弾けて、種がこぼれてしまった。教諭は、この偶然の出来事を生かし「植物の生長に対する興味、関心が広がってほしい」と、トマトの種を植えてみることを提案し、植木鉢を準備するなど環境をつくった。その取組に興味をもった子どもたちが「自分も種を植えてみたい」と種のある食べ物を弁当に入れてきたり、家庭から種を持ってきたりするようになった。取組を学級で共有することにより、さらに興味をもつ幼児が増えてきた。トマトの種が生長するのかは予測がつかないが、「まずは、やってみる！」という経験を大切にしたい。

幼児の興味・関心をもとにした遊びが主体的、対話的で深い学びとなるための環境の構成と援助とは

～弁当の時間に～



お弁当の
トマトの種がこぼ
れてしまったよ

トマトの種、植え
てみたらどうなる
のかな!?



きっとトマトの
芽が出るね

～弁当時間の後～



やってみ
たいな!

環境の構成と援助

- ・偶然の出来事によって幼児の心が動いたタイミングを柔軟に受け止めて、発達に必要な経験が得られるよう生活をつくる。
- ・「やってみよう！」の声に応じてスピーディーに環境を準備する。
- ・教諭同士で、幼児一人一人にこの時期に何を育てたいかというねらいを共有する。
- ・幼児の思いが実現することで、学びが深まるよう環境を再構成しながら、遊びの場を継続する。



この種、植えてみるんだ！
お家から持ってきたの

幼児の育ちや幼児期にふさわしい生活について家庭と一緒に考えていくことを目指すためのポイント

遊びのエピソードが幼児期の発達や大切にしたい経験を保護者に伝えるきっかけになる。
～玄関掲示やお便り、立ち話、懇談会等、様々な機会を通して目的によって伝え方を工夫する。
～遊びのエピソードを家庭も一緒に面白がってもらえるように発信する。

保育の様子を発信して共に幼児の育ちを喜び関係性を構築する。
～肯定的、共感的なまなざしで、保護者に寄り添いながらアプローチする。

～家庭への発信～

園での出来事に保護者が共感すると、子どもの興味・関心がより、高まりますよ。



種がちゃんと育たなくてもいいのです。幼児期の経験は、ファンタジーの世界を楽しむことと実体験をすることの、どちらも大切です。

～家庭からの声～



「家庭から種等を持ってきていいよ」と園が発信してくれたので親も安心できました。

〇さんは、誰も植えていない種を植えてみるのが楽しいみたいです。種のある食べ物に詳しいですね！

子どもが「種を植えてみたい！」というので、種のある野菜が気になります！

子どもから話を聞いて、幼稚園の遊びや生活を家庭も一緒に面白がっています。

今後に向けて



種を植える体験が広がり、ポットがどんどん増えていく環境となった。保護者に、この経験を通して、一人一人の楽しんでいるポイントや学びを伝えていくことで、家庭と一緒に園生活を考えていくきっかけとなった。

- ・子どもの興味・関心に基づく主体的な活動としての遊びを通して、保護者との双方向の連携を深め、子どもの育ちや学びを家庭と「一緒に考える」ことを目指す。